

紅屋の娘

原作並脚色者 帝キネ 現代映畫
 監督者 小瀧すみ子
 撮影者 松本英一
 鍋本榮一郎
 主要役割
 大學生深田修策 松本泰輔
 同 笹井史郎 藤間林太郎
 同 水木巨 近松英三郎
 紅屋の娘まり子 久野あかね
 妹 早苗 吉野花子
 女給 瑞枝 鈴木信子
 下宿の娘時世 園葉子
 その母 八重野 千枝

紅屋の主人茂助 小島洋々
 妻 その 尾崎静子
 解説——松本英一氏の帝キネ復
 歸第一回監督作品で、松本泰輔
 復歸、近松英三郎入社第一回出
 演なる小唄映畫である。
 略筋——水木はふさした事から
 紅屋の娘まり子と戀におちたが、
 まり子には水木の同窓笹井さ
 云ふ許婚があつた。水木の下宿
 の娘時世も水木を慕つてゐた。
 彼の親友深田は戀の成就をさす
 べく心を痛めてゐた。

突然、紅屋が火災に襲はれた。水木は火災の
 渦中からまり子を救助したが、その功名は笹井
 に奪はれて了つた。かくてまり子は笹井と結婚
 する事となつた。兼て水木に戀してゐたカフエ
 ーイットの女給瑞枝は、純情な時世に戀を譲り
 悲しい諦めに泣いた。
 しかし、處女心の一筋に思ひつめたまり子は笹
 井から逃れて水木の許へ走つた。この纏れを解
 くのは誰であらうか？ 允奪しきつたまり子の
 胸の思ひも今は叶へる術がない——遂に紅屋の
 娘まり子は狂戀の踊子となつた。
 カフエーイットの舞臺で演ぜられる民謡「紅
 屋の娘」の舞踊——これぞそのまゝに失戀せし
 若人達の姿であつた。



「紅屋の娘」帝キネ松本英一作
 品。右より松葉笑子と泰本泰輔